

# 平成30年度病害虫発生予察注意報第1号

平成30年9月5日  
鳥取県病害虫防除所

## 注意報の概要

8月下旬現在、カメムシ類の発生量が多く、果樹全般において果実被害の発生が懸念される。今後、果樹園への飛来量が増加すると予想されるため、防除を徹底する必要がある。

## 病害虫名：果樹カメムシ類

- 1 対象作物 果樹全般
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生時期 平年並
- 4 発生量 多い

## 5 注意報発令の根拠

- (1) カメムシ類の予察灯における調査では、8月中旬になって誘殺数が急増している。種類や地点により誘殺状況は異なるが、全般的に発生量が多い（表1-1～3）。
- (2) 県予察ほ場（園芸試験場河原試験地）において、少数ながらカキへの果実寄生や落果等の被害が確認されている。
- (3) 向こう1か月の気象予報（8月30日発表）では、平均気温は平年並と予想されており、カメムシ類の活動にやや好適な条件になる見込みである。

## 6 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類の被害や飛来状況は、ほ場間差が大きいため、園内外をこまめに見回り早期発見に努め、被害果実やカメムシ類の発生が多い場合は早急に防除を行う（ネオニコチノイド系又は合成ピレスロイド系殺虫剤のいずれかを選択）。特に、過去の多発年に早期被害を受けた地域では注意する。
- (2) 防除は、カメムシ類が飛来する夕方か早朝が効果的である。ただし、薬剤が乾きにくい気象条件の時は薬害が発生しやすいため夕方散布を実施しない。また、カメムシ類は移動性が高いため、広域的な防除に努める。
- (3) 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用は、カイガラムシ類及びハダニ類の発生を助長した事例があるので、必要最小限の使用にとどめる。
- (4) 各樹種の防除薬剤は表2を参考とする。
- (5) 農薬使用に当たっては、使用基準を遵守するとともに、適正使用、事故防止に努める。また、養蜂が行われている地区では蜜蜂の巣箱やその周辺に農薬が飛散しないように注意し、蜜蜂への危害防止に努めるなど、有用生物や水質への影響低減を徹底する。

表1-1 予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数

月・旬	八頭町		鳥取市河原町		湯梨浜町		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
7月計	119	1,249.8	192	591.0	81	301.2	125	394.1
8・上	59	394.6	264	301.0	61	168.9	119	242.5
・中	503	355.2	516	294.0	268	159.5	704	177.9
・下	<u>1,268</u>	298.9	<u>1,157</u>	243.0	<u>397</u>	123.9	<u>561</u>	153.7

\*平年：平成20～29年の平均値、下線部は平年を上回る誘殺数を示す。

表1-2 予察灯におけるクサギカメムシ誘殺数（頭）

月・旬	八頭町		鳥取市河原町		湯梨浜町		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
7月計	507	832.5	380	298.0	31	107.6	79	109.7
8・上	239	514.4	281	286.0	5	126.5	65	99.3
・中	<u>1,032</u>	477.1	326	324.0	<u>239</u>	168.3	<u>154</u>	94.4
・下	<u>817</u>	274.8	<u>288</u>	191.0	<u>186</u>	92.0	<u>92</u>	36.1

\*平年：平成20～29年の平均値、下線部は平年を上回る誘殺数を示す。

表1-3 予察灯におけるツヤアオカメムシ誘殺数（頭）

月・旬	八頭町		鳥取市河原町		湯梨浜町		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
7月計	28	871.0	40	286.0	19	232.6	52	259.8
8・上	18	332.2	107	135.0	53	184.8	102	68.9
・中	39	158.7	<u>328</u>	130.0	<u>296</u>	102.8	<u>443</u>	70.3
・下	92	74.1	<u>214</u>	72.0	<u>134</u>	64.5	<u>161</u>	36.8

\*平年：平成20～29年の平均値、下線部は平年を上回る誘殺数を示す。



チャバネアオカメムシ成虫



クサギカメムシ成虫



ツヤアオカメムシ成虫

写真1 主要な果樹カメムシ類



ナシ‘王秋’の果実被害



カキ‘富有’の果実被害

写真2 果樹カメムシ類による果実被害（収穫期）

表2 果樹カメムシ類の主な防除薬剤と使用基準\*

作物	薬剤名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	薬剤の系統
ナシ	ジノテフラン水溶剤 (アルバ <sup>®</sup> リン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	ネ <sup>®</sup> コチノイト <sup>®</sup> 系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	
	シペルメトリン水和剤 (アグロスリン水和剤)	1,000 ～ 2,000	収穫前日まで	3回以内	合成ピ <sup>®</sup> レスロイト <sup>®</sup> 系
	シペルメトリン水和剤 (イカズチWDG)	1,500	収穫前日まで		
	テルスターフロアブル	3,000 ～ 6,000	収穫前日まで	2回以内	
カキ	ジノテフラン水溶剤 (アルバ <sup>®</sup> リン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫3日前まで	3回以内	合成ピ <sup>®</sup> レスロイト <sup>®</sup> 系
	アグロスリン水和剤	1,000 ～ 2,000	収穫前日まで	3回以内	
ブドウ	ジノテフラン水溶剤 (アルバ <sup>®</sup> リン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	ネ <sup>®</sup> コチノイト <sup>®</sup> 系
リンゴ	ジノテフラン水溶剤 (アルバ <sup>®</sup> リン顆粒水溶剤 又はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	ネ <sup>®</sup> コチノイト <sup>®</sup> 系
	MR. ジョーカー水和剤	2,000	収穫14日前まで	2回以内	合成ピ <sup>®</sup> レスロイト <sup>®</sup> 系

\*農薬の登録内容は平成30年8月8日現在